

一般社団法人「南三河食文化研究会」が発足



設立総会には食に携わる企業の経営者らが参加した

三河地域南部の食文化の研究や食材のPR、販売などを手掛ける一般社団法人「南三河食文化研究会」が19日に発足した。これまで食品関連企業の経営者らが任意で活動していたが、法人化により活動の幅を広げる。今年夏にもホームページを立ち上げ、情報発信を強化する。(刈谷)

南三河は造語で、碧海5市

(刈谷、碧南、安城、知立、高浜)を中心に、西は知多半島東部、東は岡崎、幡豆などのエリアを指す。醸造業や農業、漁業などが盛んで、競争力の高い食材が豊富にある。同研究会はこれまで「うまいもの会」の愛称

食材のPRや販売

パンフレットやホームページで情報発信を強化

で活動し、食品関連事業者らが交流を深めてきた。法人化によって、営利的な販売活動や委託事業の請負など、多岐にわたる活動で食文化の発展と継承に力を入れる。

19日に刈谷市内で設立総会を開催し、碧南市の小池友妃子市長ら来賓に加え、食品メーカーや飲食店の経営者らが出席した。理事長に、おとうふ工房いしかわの石川社長が就任することを確認。企業と個人含め62会員でスタートした。

代表発起人は、おとうふ工房いしかわの石川伸社長や小伴天の長田勇久社長、日東醸造の蜷川洋一社長ら8人が名を連ねた。研究会の登記住所は、碧南市作塚町1の16の日本料理店「一灯(いっとう)」。会員区分は四つに設定した。正会員は入会金3万円、年会費6万円、個人会員は入会金なしで年会費1万円。

石川理事長は「この会は20年ほど前に、私と長田さんと二人で始めたのがきっかけだ。主な目的は、われわれが生まれ育ったこの地域の食文化をもっと広めること。皆さまとともに愛知県と市町を盛り上げていきたい」と話した。

初年度の活動は、共同PR事業として、パンフレットやホームページの制作、マルシェにお